塚田こども医院
ヘルス・レター

ＲＳウイルス
予　防　接　種

　ＲＳワクチンは、妊婦さんに接種して免疫を作り、それが胎児に移行します。つまり乳児をＲＳウイルスから守るためのワクチンです。

　とても効果があり、重症になりやすい乳児をＲＳウイルスから守ってくれます。

　2026 年４月から定期接種になりました。

世界の
子どもに
ワクチンを

日本委員会

一口メモ

予防接種の注意・お願い

　予防接種を安心して受けるために、いくつかのことを心がけてください。

○受ける予防接種について、病気のことやワクチンの効果・副反応などについて、あらかじめ知っていてほしいと思います。市町村からの文書や、育児書（雑誌）なども参考にしてください。分からないことなどがありましたら、会場の職員や医師にたずねてください。

○健康状態の良い時に受けましょう。心配なときは無理せずに延期したり、医師に相談してください。

○前日は入浴して、体を清潔に。

○予診票は、良く読んで、きちんと記入しましょう。

○母子手帳も忘れずに。（個別接種では、念のために保険証も）

○接種の会場で、体温を測り、記入します。

○予期できない重篤な副反応が、注射のあと 15 ～ 30 分以内におきることがあります。すぐに帰らず、しばらく会場で様子を見ていてください。

○接種の当日は、入浴をふくめていつもと同じ生活でいいのですが、激しい運動はさけてください。

塚田こども医院

ＲＳウイルスは、風邪を起こすウイルスです。十分な免疫ができず、一生のうちで何度でもかかることがあります。

２歳までにほぼ全員がかかると言われています。特に生後半年程度までの乳児では重症になります。細気管支炎といって、喘息のように息が荒く、呼吸困難になることもあります。ゼーゼーしたり、呼吸数が多い時、顔色が真っ白、あるいは紫色になっているなどは呼吸困難が起きている可能性があり、心配です。病院へ急いでください。

乳児の時にＲＳウイルスにかかると、その後に気管支喘息になる可能性も指摘されています。

大人の方もＲＳウイルスにかかることがあります。通常は普通の感冒症状で、１～２週間で治っていきます。しかし高齢者、喘息、慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）、心疾患などの基礎疾患を持つ方はかかると、時に重症になります。

ＲＳウイルスは乳児とともに高齢者などが問題になります。このため、ワクチンの開発はまずは高齢者を対象として始められました。現在、日本でも 60 歳以上の方を対象にワクチン接種ができます（任意接種）。

現在、乳児へのワクチン接種はありません。リスクのある乳児には抗体薬がありますが、接種対象は限定されています。

そこで考えられたのが妊婦への接種です。妊婦にＲＳウイルスのワクチン接種を行い、妊婦の体内にＲＳウイルスに対する抗体を作ります。それが胎盤を通じて胎児に移行し、乳児をＲＳウイルスから守ろうとする戦略です。

2026 年 4 月から公費で行われることになりました（定期接種）。抗体が作られるまでに時間がかかるため、出産直前での接種は効果がなく、接種対象にはなっていません。

基本的な感染対策は大切です。換気、手洗い、手指消毒、マスク着用などです。特に感染している人がいれば、乳児にできるだけ近づけないことが大切です（と言ってもきょうだいではなかなか難しいですが）。

RS ウイルスの予防接種

定期接種

接種対象：妊娠 28 週～ 36 週

使用ワクチン：アブリスボ

接種方法：0.5ml を 1 回接種（筋注）

任意接種

接種対象：60 歳以上

使用ワクチン：アブリスボ

接種方法：0.5ml を 1 回接種（筋注）

予防接種を受けたあとの注意

※予防接種の副作用として、ごくまれに、注射の直後に急に具合の悪くなることもあります（**アナフィラキシー・ショック**）。万一のために 15 分程度は医院の中にいていただき、そのあともしばらくは医院にすぐひきかえせるようにしていてください。（その場で適切な処置をすれば、最悪の事態はさけられます。）

RS ウイルスワクチンは**不活化してあるワクチン**です。
次に受ける異なるワクチンとの接種間隔は、とくに制限はありません。

RS ウイルスワクチン

①接種は筋肉注射です。

②今日は激しい運動は避け、普通の生活をしていて下さい（**入浴はかまいません**）。

③熱を出すこともが少しあります。

④注射したところが、赤くなったり、はれたりすることがありますが、そのままでも数日でおさまります（程度の強いときには受診して下さい）。